

報道関係各位

日本のがん罹患数・率の最新全国値公表 2014 年がん罹患数 86.7 万例

2018 年 9 月 15 日

国立研究開発法人国立がん研究センター

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター(センター長:若尾文彦)は、厚生労働科学研究費補助金「都道府県がん登録の全国集計データと診療情報等の併用・突合によるがん統計整備及び活用促進の研究」研究班(研究代表者:松田智大)が、「地域がん登録」データを活用し 2014 年に新たにがんと診断された罹患数・率として算出した全国値を、冊子に編集・公表しました。

集計の結果、2014 年の 1 年間にがんと診断された症例の全国値は、男 501,527 例 女 365,881 例 男女計 867,408 例でした。また、人口 10 万対の年齢調整罹患率は、男 429.4 女 300.7 男女計 354.6 (前年比+3.5)となりました。

「地域がん登録」は、都道府県のがん対策を目的に 1950 年代より一部の県で開始され、研究班が各地域がん登録からデータを収集する活動を開始して以降、年々参加都道府県が増加し、地域がん登録の標準化と精度向上を促進してまいりました。本研究班は、2013 年に引き続き 47 全ての都道府県から情報を収集することに成功したことから、2014 年は 47 都道府県を合計した値(合計値)を算出しました。

今回の全国値は、ほとんどの地域が国際精度基準を満たしたことから、高精度地域の罹患数を死亡統計によって補正した推計値ではなく、本来あるべき実測値の合計(合計値)を採用しました。前回から、「全国がん登録方式」でのデータ処理方法に移行したことで、合計値は、より真の罹患数に近いと想定され、国際比較が可能です。また、データ精度の向上に伴い、これまでの 26 部位を、詳細 87 部位(ICD10 コードの 3 桁)に拡大した集計を提示することもできました。

○2014 年集計結果のポイント

- 2014 年の 1 年間にがんと診断された症例の推計数は、男 501,527 例 女 365,881 例 男女計 867,408 例と、2013 年の男女合計値 計 848,830 例より増加しました。(2014 年合計値: 報告書 60 ページ 報告書表 30)
- 人口 10 万対の年齢調整罹患率は男 429.4 女 300.7 男女計 354.6 と、2013 年の男女計 351.1 より増加しました。(2014 年合計値: 報告書 60 ページ 報告書表 30)
- 部位別に罹患数を見ると、男性は胃、肺、大腸、前立腺、肝の順で多く、女性は乳房、大腸、胃、肺、子宮の順でした。(報告書 80~81 ページ 報告書図 3、4)

- 昨年に引き続き、全都道府県が国内精度基準を満たし、県間比較可能です。このうち、41 県が国際精度基準を満たしました(総人口の 80.2%に相当)。登録の精度指標は、年々着実に向上し、DCO%(病院からの届出がなく死亡診断書のみで把握されている症例の割合)は6.4、合計値は昨年までの方法での推計値とも大きな差がありません。(図 1)
- 今回の合計値算出には、昨年に引き続き全国がん登録のデータ処理方法を多くの都道府県で採用しました。前々回の 2012 年のデータに比較してこのことによる罹患数の増減がありません。
- データ精度の向上の伴い、これまでの 26 部位を、詳細 87 部位(ICD10 コードの 3 桁)に拡大した集計を提示することもできました。(図 2、3 報告書 74～75 ページ)

<解説>

① がん登録に基づく統計について

がん登録に基づく統計は、がん対策の基礎となるものですが、実測値がなかったことが大きな課題でした。いくつかの「地域がん登録」では、自県施設の自県住民のデータのみを収集しているため他県受診の場合の把握は完全ではありませんでしたが、日本のがんの実態把握として十分に精度の高いものです。2018 年に予定されている「全国がん登録」の罹患数公表に先駆けて、移行期にふさわしい、国の特性や地域差を観察できる、信頼性の高い統計値を算出することができました。

② 地域がん登録について

「地域がん登録」は、都道府県のがん対策を目的に 1950 年代より一部の県で開始されました。研究班が各地域がん登録からデータを収集する活動を開始して以降、年々参加都道府県が増加し、2010 年は 30 県、2011 年は 40 県、2012 年には初めて 47 都道府県の登録データが揃いました。

③ 集計方法について

2015 年度から、全国がん登録データと連携した都道府県がんデータベースシステムが運用され、死亡票の取り扱いや遡り調査の実施方法、罹患日の定義、全国照合の実施など、全国がん登録での方式に準拠した集計が進められています。届出の増加も踏まえ、MCIJ2014 の合計値は 2014 年の真の罹患数に近いと想定され、2016 年罹患症例以降の全国がん登録の集計方法とほぼ同じになりました。

公開ウェブサイト

がん情報サービス URL:<http://ganjoho.jp>

- 医療関係者向け 報告書
「全国がん罹患モニタリング集計 2014 年罹患数・率報告」
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/monitoring.html
- 医療関係者向け 元データを Excel にてダウンロードできます。
「集計表のダウンロード」
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html

- 一般向け
「最新がん統計」罹患数の順位などポイントをご紹介します。
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

図1 主要部位別 合計値と推計値の比較 全部位(上皮内がんを除く)
2014年、左:男性、右:女性

- **罹患数**

2014年合計値 全部位 男 501,527例 女 365,881例 男女計 867,408例

2014年推計値 全部位 男 505,465例 女 371,248例 男女計 876,713例

- **年齢調整罹患率**

2014年合計値 全部位 人口10万対 男 429.4 女 300.7 男女計 354.6

2014年推計値 全部位 人口10万対 男 433.0 女 310.8 男女計 362.1

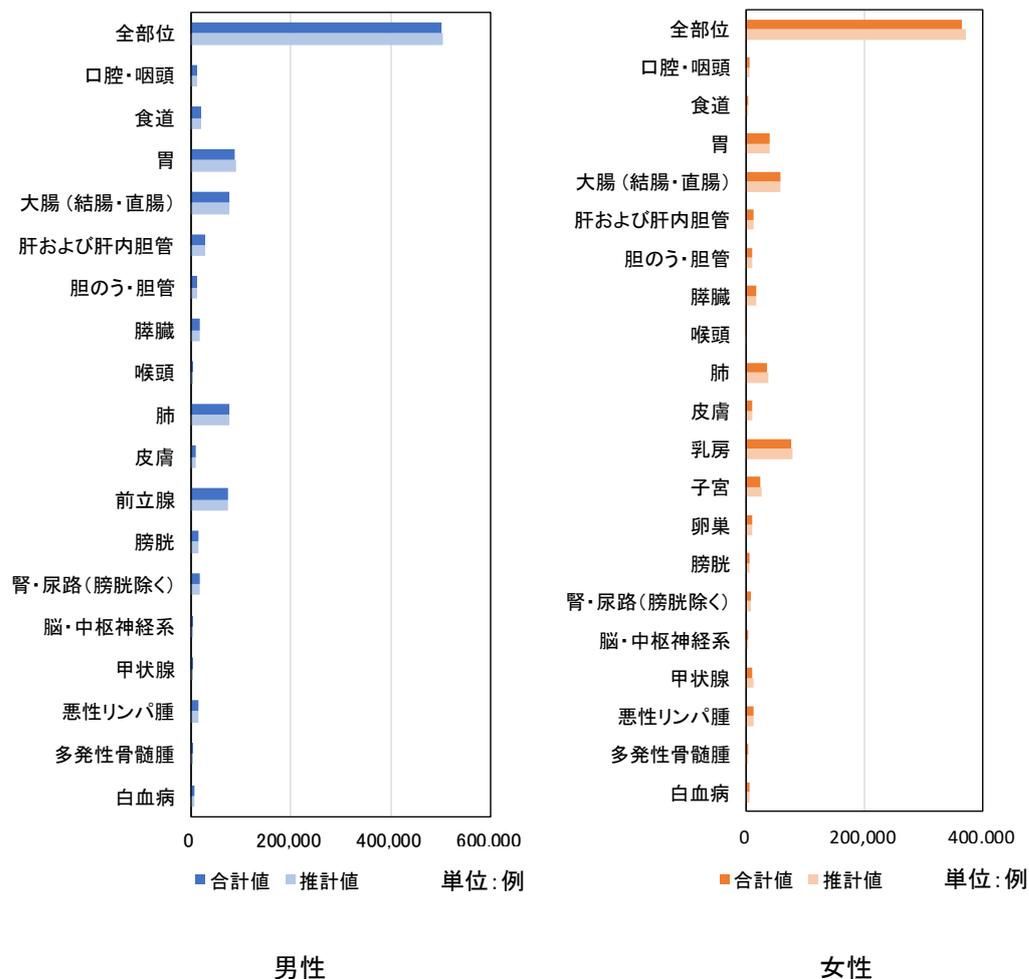


図2 詳細部位別 年齢調整罹患率(人口10万対) 男性 2014年

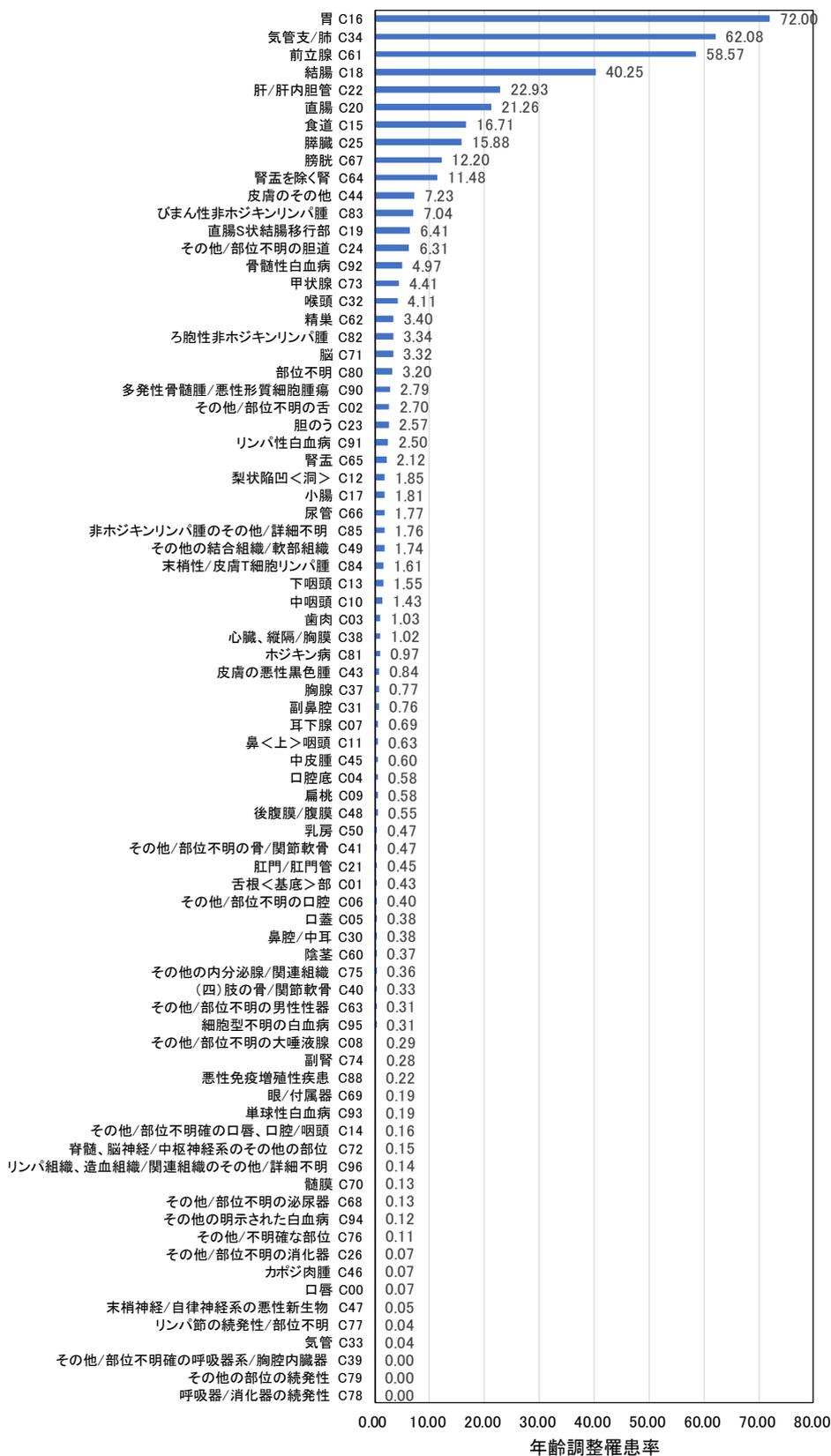
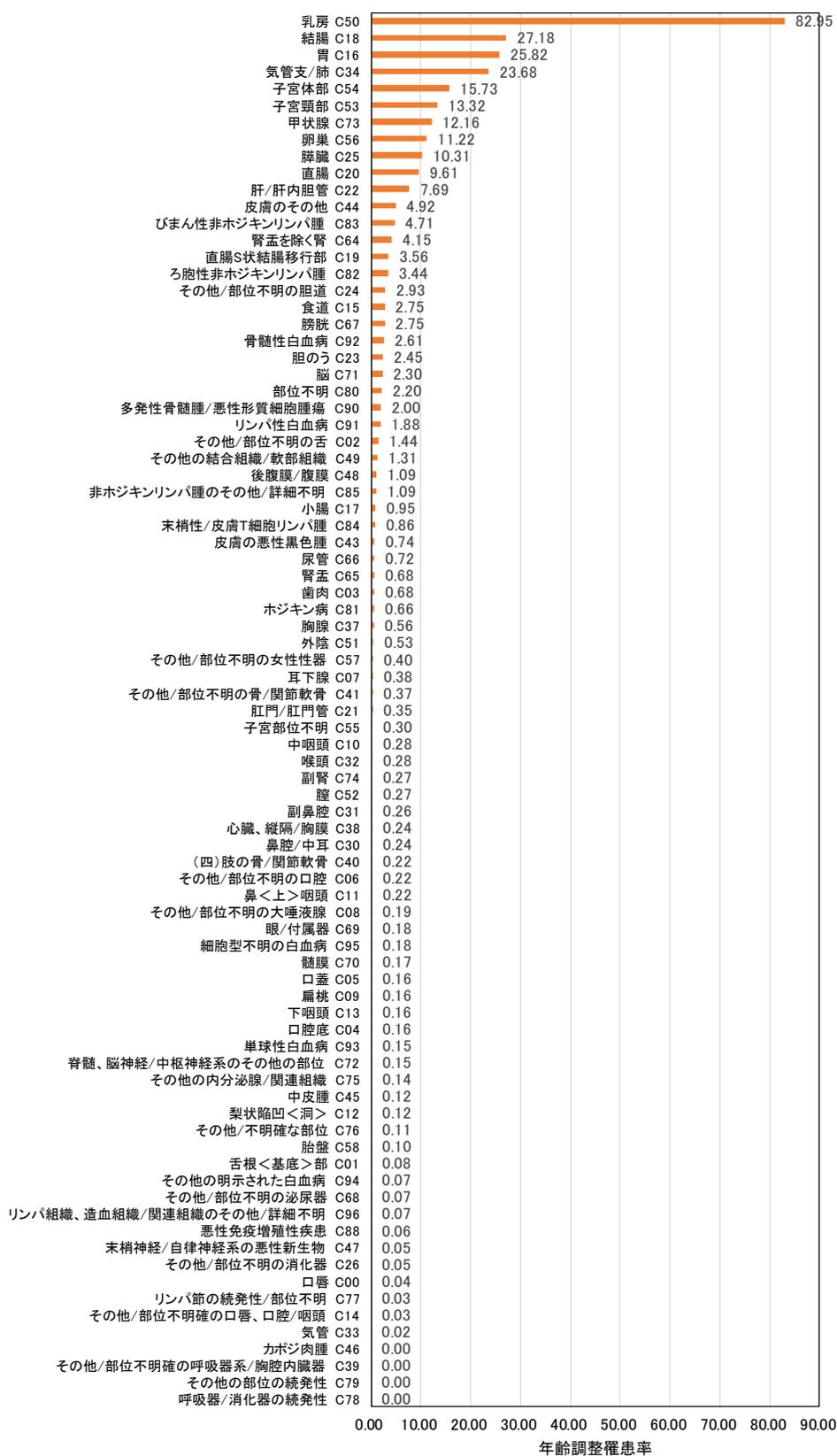


図3 年齢調整罹患率(人口10万対) 詳細部位別 女性 2014年



【参考】主要部位・詳細部位対応表

詳細部位	ICD10 コード	主要部位	ICD10 コード
全部位	C00-C96	全部位	C00-C96
口唇	C00	口腔・咽頭	C00-C14
舌根<基底>部	C01		
その他および部位不明の舌	C02		
歯肉	C03		
口腔底	C04		
口蓋	C05		
その他および部位不明の口腔	C06		
耳下腺	C07		
その他および部位不明の大唾液腺	C08		
扁桃	C09		
中咽頭	C10		
鼻<上>咽頭	C11		
梨状陥凹<洞>	C12		
下咽頭	C13		
その他および部位不明確の口唇、口腔および咽頭	C14		
食道	C15	食道	C15
胃	C16	胃	C16
小腸	C17		
結腸	C18	大腸(結腸・直腸)	C18-C20
直腸 S 状結腸移行部	C19		
直腸	C20		
肛門および肛門管	C21		
肝および肝内胆管	C22	肝および肝内胆管	C22
胆のう	C23	胆のう・胆管	C23-C24
その他および部位不明の胆道	C24		
膵臓	C25	膵臓	C25
その他および部位不明の消化器	C26		
鼻腔および中耳	C30		
副鼻腔	C31		
喉頭	C32	喉頭	C32
気管	C33	肺	C33-C34
気管支および肺	C34		
胸腺	C37		

詳細部位	ICD10 コード	主要部位	ICD10 コード
心臓、縦隔および胸膜	C38		
その他および部位不明の呼吸器系および胸腔内臓器	C39		
(四)肢の骨および関節軟骨	C40		
その他および部位不明の骨および関節軟骨	C41		
皮膚の悪性黒色腫	C43	皮膚 *1	C43-C44
皮膚のその他	C44		
中皮腫	C45		
カボジ肉腫	C46		
末梢神経および自律神経系の悪性新生物	C47		
後腹膜および腹膜	C48		
その他の結合組織および軟部組織	C49		
乳房	C50	乳房	C50
外陰	C51		
陰	C52		
子宮頸部	C53	子宮	C53-C55
子宮体部	C54		
子宮部位不明	C55		
卵巣	C56	卵巣	C56
その他および部位不明の女性性器	C57		
胎盤	C58		
陰茎	C60		
前立腺	C61	前立腺	C61
精巣	C62		
その他および部位不明の男性性器	C63		
腎盂を除く腎	C64	腎・尿路(膀胱除く)	C64-C66, C68
腎盂	C65		
尿管	C66		
膀胱	C67	膀胱	C67
その他および部位不明の泌尿器	C68	腎・尿路(膀胱除く)	C64-C66, C68
眼および付属器	C69		
髄膜	C70	脳・中枢神経系	C70-C72
脳	C71		
脊髄、脳神経および中枢神経系のその他の部位	C72		
甲状腺	C73	甲状腺	C73
副腎	C74		

詳細部位	ICD10 コード	主要部位	ICD10 コード
その他の内分泌腺および関連組織	C75		
その他および不明確な部位	C76		
リンパ節の続発性および部位不明	C77		
呼吸器および消化器の続発性	C78		
その他の部位の続発性	C79		
部位不明	C80		
ホジキン病	C81	悪性リンパ腫	C81-C85, C96
ろ胞性非ホジキンリンパ腫	C82		
びまん性非ホジキンリンパ腫	C83		
末梢性および皮膚 T 細胞リンパ腫	C84		
非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明	C85		
悪性免疫増殖性疾患	C88	多発性骨髄腫	C88, C90
多発性骨髄腫および悪性形質細胞腫瘍	C90		
リンパ性白血病	C91	白血病	C91-C95
骨髄性白血病	C92		
単球性白血病	C93		
その他の明示された白血病	C94		
細胞型不明の白血病	C95		
リンパ組織、造血組織および関連組織のその他および詳細不明	C96	悪性リンパ腫	C81-C85, C96

青字: 主要部位をさらに詳細部位に細分化して集計

赤字: 本報告で初集計

黒字: 主要部位・詳細部位ともに共通の ICD10 コードで集計

がん罹患・死亡データの更新に関連する追加集計

■ 生涯累積罹患リスク

生涯累積罹患リスクとは…一生のうちにある病気に罹患する(その病気と診断される)おおよその確率

最新の 2014 年がん罹患データに基づいて生涯累積罹患リスクを算出すると、生涯でがん罹患する確率は、男性 62%(2 人に 1 人)、女性 47%(2 人に 1 人)。2013 年がん罹患データとほぼ同じ(男性 62%、女性 46%)。

■ 生涯累積死亡リスク

生涯累積死亡リスクとは…一生のうちにある病気で死亡するおおよその確率

最新の 2016 年がん死亡データに基づいて生涯累積死亡リスクを算出すると、生涯でがんにより死亡する確率は、男性 25%(4 人に 1 人)、女性 16%(6 人に 1 人)。2015 年がん死亡データと比較して変化なし(男性 25%、女性 16%)。(死亡データは昨年 12 月に 2015 年から 2016 年に更新されました)

がん種ごとのデータは以下のページに掲載されています。

最新がん統計

https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

■ 2018 年のがん統計予測

日本のがん統計は、罹患データは 4~5 年、死亡データは 1~2 年遅れて公表されています。諸外国では、これらの遅れを数学的な手法で補正して、現時点でのがん統計を予測する試み(短期予測)が実施されています。この短期予測を最新の 2014 年がん罹患データおよび 2016 年がん死亡データに基づいて実施すると、以下の通りになります。

がん罹患数予測(2018 年)

男女計 1,013,600 例 (男性 574,800 例、女性 438,700 例)

2017 年の予測値とほぼ同じ(男女計 1,014,000 例、男性 575,900 例、女性 438,100 例)

がん死亡数予測(2018 年)

男女計 379,900 人 (男性 223,000 人、女性 157,000 人)

2017 年の予測値とほぼ同じ(男女計 378,000 人、男性 222,000 人、女性 156,000 人)

がん種ごとの予測結果は以下のページに掲載されています。

2018 年のがん統計予測 https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/short_pred.html

<報道関係からのお問い合わせ先>

国立研究開発法人国立がん研究センター

企画戦略局 広報企画室

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL:03-3542-2511(代表)

E-mail:ncc-admin@ncc.go.jp